

ブリスベン留学体験記

Frazer Institute Faculty of Medicine
The University of Queensland

杉原 悟
(岡山大学病院皮膚科)

2022年4月よりクイーンズランド大学にて Nikolas Haass 教授のもとで研究留学をしている杉原悟と申します。私が所属している研究室のあるクイーンズランド大学はオーストラリア北東部に位置するクイーンズランド州の州都であるブリスベンにあります。ブリスベンはオーストラリア第3の都市であり、来る2032年にはオリンピックの開催が決定しています。また、亜熱帯気候のため、冬の最低気温が5度を下回ることはほとんどなく、非常に過ごしやすい場所です。自然の熱帯雨林もそこかしこにあり、カンガルーやコアラをはじめ、多くの野性動物を見ることが出来ます。おかげさまでバードウォッチングと写真撮影を新たな趣味とすることができました。Haass 教授もバードウォッチングが趣味でたびたび一緒に近所の森林に出掛けています。

留学生活と研究について、私は英語力に元々不安があったので、英会話や英語の勉強をして今回の留学に望みました。しかしながらいざ渡豪してみると日常会話すらほとんど聞き取ることが出来ず非常に苦労しました。幸いにもラボメンバーはみなフレンドリーで、辛抱強く私との会話を続けてくれたおかげで次第に英語力は上達していったように思います。しかしながら日常会話と研究室での会話はちがうもので、自分の伝えたいことを表現するにはまだまだ苦労しています。私が所属するラボは Princess Alexandra Hospital に併設された Translational Research Institute という建物にあり、悪性黒色腫の3D培養を行い、細胞周囲微小環境がどのように調節されているか、その調節機構を經由して既存の悪性黒色腫治療をいかに発展させることが出来るかについて研究しています。施設の名前にもあるように、基礎と臨床の橋渡し研究を主体とした施設であり、臨床応用を目指した多くの研究が行われています。この施設では他の研究室との垣根が低く、皆積極的に他のラボのメンバーと協力して研究をしています。他のラボと協力して新たな意見や手法を積極的に検討・取り入れることで、スピーディーかつ効果的な研究が可能になっていると感じました。こういった日本と海外の違いを肌で感じる事が出来たことも大きい収穫であったと思います。今回の留学研究経験を活かして日本でも橋渡しにつながるような研究を行い、今後の悪性黒色腫治療の進歩に貢献していきたいと考えています。

最後に、今回私を送りだして下さった岡山大学大学院皮膚科の森実真教授ならびに受入れて下さったクイーンズランド大学の Nikolas Haass 教授、およびこのような貴重な機会

を与えて下さった上原記念生命科学財団の皆様に厚く御礼申し上げます。



野生のワラビーがとびだしてきた！